

子育て環境充実へ

未来図会議で市民ら議論

陸前高田市

陸前高田市未来図会で幸せを感じられる陸前高田」を築こうと、市民らが議論する場。開かれた。本年度3回目の今会議は「子育てするなら陸前高田」をテーマに設定し、幅広い世代の市民らが子育て環境充実に向けて意見を交わした。

未来図会議は、市が推進する健康づくりの合言葉「はまっけらいん、かだっけらいん(略称・はまかだ)」運動を普及し、「健康

で幸せを感じられる陸前高田」を築こうと、市民らが議論する場。会議を通じて参加者間の新たなつながりも育んでいる。

この日は約50人が参加。市福祉部の齋藤晴美部長は「子育て支援を切り口に人と人とのつながりの重要性を再認識する機会とした」とあいさつした。

市内で親子、子ども向けのイベントを手がける市シルバー人材センター、川の駅よこたグリーンツーリズム部会「りくmama+」(プラス)の担当者がそれぞれ活動を発表した。

「りくmama+」は子育て中の母親らで結成し、定期的にサロンや季節行事を開催。メンバーの藤沼典子さん(38)は「子育てに追われるママさんたちは、ちょっとした用足しも難しい。少しの間、子どもをみてもらえようような助け合い、信頼



し合える環境ができてほしい」と述べた。最後に子育てに関する子育て世代も参加した未来図会議(電子新聞に別写真あり)

東海新報

2019年11月16日

「自分ができること」などをテーマにグループ別に意見交換。同市のNPO法人・きらりんきつずの伊藤昌子理事長は「地域の見どころや遊び方を知っているのはやはり地元の人。そうした人とながるためにはまかだ」することが大事だと改めて感じた」と話した。

アドバイザーとして会議に臨んだ市ノーマライゼーション大使の岩室紳也医師は「子育てするなら陸前高田」をスローガンで終わらせず、実現するよう環境が充実してほしい」と願った。